

決算に関する全般的な説明

2011年3月14日に計画していたIUCN-J会員総会は、東日本東大震災を受け、延期となりました。当初、同総会では、年度内に生じた予算の変更を調整するため、補正予算を計上する計画でしたが、これを行うことはできませんでした。下記の通り、予算と決算に大きな差額が生じています。

①助成金の申請金額（予算）と内定額の差が生じています(注2)。

平成22年度地球環境基金は申請金額570万円に対し500万円の内定額、平成22年度日本経団連自然保護基金1125万円の申請に対し790万円の内定となりました。

②普及広報事業に、年度中に生じた事業支出がありました(注5、同7、同8)。

③支出および収入が年度をまたぐものが生じ、未収金(注2)と未払い金(注4)が発生しています。

決算に関する注記

注1 会費は、社団・財団8団体から各3万円、NPO・任意団体14団体から各5千円の計31万円が予算の根拠となっている。今回、エルザ自然保護の会から二度にわたっての振り込みがあり、その分を2011年度会費の預かり金として計上する。

注2 地球環境基金は、活動後の支払い実費に基づく申請に対して、後払いを行う方式の助成金である。第5回申請予定分(94万円)は、振り込みが4月末となっている。3月末までの振込予定を今年度の助成金収入とし、94万円を未収金として計上する。

注3 雑収入の主な内訳は、日経エコロジー執筆謝金(約6万円)と、地球生きもの委員会委員謝金(13万円)である。

注4 2009年度は、人件費20万円、事務経費20万円として計40万円を計上した。近年、IUCN-Jの活動が拡大傾向にあり、特に2010年度はCBDのCOP10が開催され、IUCN-Jも参加することから、2010年度に限り、事務管理費を100万円に増額した。事務局担当職員の人件費、IUCN-J事業実施に必要なオフィス維持費・通信費等の管理に係る費用が含まれる。なお、この事務管理費は未払い金として計上し、未収金の振込後に、NACS-Jに支払う。

注5 レッドリスト冊子(A5サイズ、8ページ、5000部の印刷)の増刷に係る費用

- 注 6 本年度は IUCN アジア地域委員会が開催されなかった。
- 注 7 2010 年度中に必要となり、リーフレットを増刷した。昨年度までの積立 20 万円に、今年度積立予定の 20 万円を足した 40 万円を予算とし、6 万部を印刷した。
- 注 8 2010 年度中に必要となり、CBD 冊子を増刷した。他団体（こどもエコクラブ）の予算による増刷とタイミングを合わせ、5000 部を増刷した。
- 注 9 経団連の助成金を活用することにより十分な成果を出すことができたため、自己費用はかからなかった。
- 注 10 内訳の主な経費は、国連総会への出張費（IUCN-J より道家、CBD 市民ネット 柏木が参加。約 35 万円）および、IUCN とのコンスティテューションイベント（10/25）の共催（40 万円）などである。
- 注 11 経団連事業（特におりがみプロジェクト）にはアルバイトが 2 名程度関わり、ワークショップの運営、ウェブサイトの更新、メール等のやり取りの補助、COP10 期間中のボランティアコーディネートに携わった。支払いについて、源泉税含め支払いを行い、受取側で適切に処理するよう依頼している。
- 注 12 地球環境基金事業（特に将来行動計画ワークショップ）にはアルバイトが 4 名程度（WS 当日は 12 名）関わり、ワークショップの事前準備、当日運営、コーディネーター補佐、ウェブサイトの入力、連絡等のやり取りの補助ならびに地球環境基金助成申請作業に携わった。予算の内訳は、バイト謝金 96 万円、ワークショップの講師謝金 30 万円である。支払いについて、源泉税含め支払いを行い、受取側で適切に処理するよう依頼している。
- 注 13 2010 年度の決算金額に基づき、昨年度からの繰り越し金額を修正する。